

2023 年度 研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所
------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2023 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

国際言語文化研究所は、研究所重点プログラム、研究所独自の萌芽的研究助成プログラム、研究所企画講演会・シンポジウムに、多くの若手研究者を巻き込みながら年度を通して遂行し、研究成果を学術論文・書籍や研究所紀要として発信してきた。

当研究所では、2016 年度から 2021 年度まで、5 つの研究所重点プログラムが同時並行で進行してきたが、2022 年度より、2 つの研究所重点プログラムへの統合を果たした。2023 年度は統合後、2 年目にあたる。

2023 年度、参画した研究者は、学内外の研究者 138 名であったが、そのうち学内の若手研究者は、28 名であった。研究成果は、著書 23 点、論文 44 点、研究発表等 48 点、主催したシンポジウム等 26 件と多彩な分野で多くの業績をあげることができた。加えて、土曜講座や連続講座の担当もを行い、研究成果の社会への還元にも努めた。

当研究所の紀要は、2023 年度において、『立命館言語文化研究』（35 巻）を 3 号刊行した。研究所の各重点プログラムなどの成果報告論文に加え、厳格な審査に通った個別論文が発表された。

当研究所が主催する連続講座としては、「2023 年度 国際言語文化研究所連続講座 言語研究のためのデータ獲得の方法論、そして言語の機械処理」を開催した(2023 年 10 月)。オンライン配信したものの、テーマが狭く限定されていたためか、多くの聴衆を得ることはできなかったが、それでも言語学者や言語学を志す若手の参加があり、学内外の研究ネットワークの構築、研究成果の社会還元などにも寄与した。また、2022 年度の連続講座「人間と人間でないものの相互作用」の成果は、『立命館言語文化研究』35 巻 1 号（2023 年 9 月）に掲載され、2023 年度の講座内容についても 2024 年度に公刊される『立命館言語文化研究』36 巻 1 号に収録される予定である。

例年通り、若手研究者の育成にも努めてきた。研究所重点プログラムでは、共同研究や研究会・シンポジウム開催を通して、(国際的) 研究成果発信・マネジメント・研究者ネットワーク構築の面で、経験豊かな研究者がメンターとしての役割を果たすように留意してきた。具体的には、研究会での発表と研究会メンバーによる質疑・討論を重ねて、外部の学会での発表準備を行うこと、テーマに関連する研究会やワークショップなどの企画・運営に携わり研究マネジメント力を獲得させるとともに外部の研究者とのネットワークの構築に心がけることなどを目標とし、専門内外の研究ネットワークを広げることができた。例年と同様、若手研究者の研究教育職への就職も複数実現した。

冒頭に述べた通り、2 つに絞り込まれた重点プロジェクトは 2022 年度が初年度で、2023 年度が 2 年目であった。相乗効果による研究の深化が期待されたが、それが十分にできたかと言うと、やや心許ない点もある。今後研究者間の交流や成果の共有を促進し相互の研究理解を図り協働の可能性を探る手法の構築を目指していくことも、2024 年度の課題の一つとしたい。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	滝沢 直宏	言語教育情報研究科	教授
運営委員	吉田 恭子	文学部	教授
	阿部 朋恒	先端総合学術研究科	准教授
	有田 節子	言語教育情報研究科	教授
	安保 寛尚	法学部	教授
	ウェルズ 恵子	文学部	特別任用教授
	小川 真和子	文学部	教授
	河原 典史	文学部	教授
	金 友子	国際関係学部	准教授
	坂下 史子	文学部	教授
	住田 翔子	産業社会学部	准教授
	田浦 秀幸	言語教育情報研究科	教授
	高橋 秀寿	文学部	特別任用教授
	内藤 由直	文学部	教授
	中村 仁美	文学部	准教授
	西岡 亜紀	文学部	教授
三須 祐介	文学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	David COULSON	言語教育情報研究科	教授
	崎山 政毅	文学部	教授
	Lachlan JACKSON	法学部	教授
	鶴野 祐介	文学部	教授
	岡本 広毅	文学部	准教授
	加部 勇一郎	食マネジメント学部	准教授
	國司 航佑	文学部	准教授
	禰美 智章	文学部	准教授
	西 成彦	先端総合学術研究科	特別任用教授
	水島 新太郎	文学部	准教授
	岡田 桂	産業社会学部	教授
	片桐 葵	言語教育センター	外国語嘱託講師
	加藤 政洋	文学部	教授
	川端 美季	衣笠総合研究機構/生存学研究所	特別招聘准教授
	竹中 悠美	先端総合学術研究科	教授
	鳥山 純子	国際関係学部	准教授
	中本 真生子	国際関係学部	准教授
二宮 周平	法学部	特任教授	

		松本 克美	法務研究科	教授
		柳原 恵	産業社会学部	准教授
		山本 めゆ	文学部	准教授
		RAJKAI Zsombor Tibor	国際関係学部	教授
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	岩本 知恵	衣笠総合研究機構	専門研究員
		中井 祐希	衣笠総合研究機構	専門研究員
		Elio Bova	衣笠総合研究機構	専門研究員
		桐原 翠	立命館アジア・日本研究機構	専門研究員
		岩本 知恵	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント	杉本 はなな	文学研究科	博士課程後期課程
		森 祐香里	文学研究科	博士課程後期課程
	③ 大学院生	鷺尾 渉	文学研究科	博士課程前期課程
		猪熊 慶祐	文学研究科	博士課程後期課程
		KAHRIMAN Sami Can	文学研究科	博士課程後期課程
		三木 菜緒美	文学研究科	博士課程後期課程
		今里 基	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		後山 剛毅	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		ASAD Marina	文学研究科	博士課程後期課程
		KIM Seungyeon	文学研究科	博士課程後期課程
		ZHAO Wuyang	文学研究科	博士課程後期課程
		宮田 絵里	文学研究科	博士課程後期課程
		ROH Hwi Jeung	文学研究科	博士課程後期課程
		橋本 真佐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		高畑 和輝	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		中川 陽平	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		OUYANG Shanshan	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		ZHANG Xian	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		福田 浩久	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		藤本 流位	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)	阪本 佳郎	立命館大学
	青木 耕平		立命館大学	学振特別研究員 (PD)
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)	FABBRETTI MATTEO	国際関係学部	授業担当講師	
	岡本 小百合	経済学部	授業担当講師	
	志賀 恭子	国際関係学部	非常勤講師	
	木下 昭	国際関係学部	非常勤講師	
	佐藤 量	先端総合学術研究科	非常勤講師	
	武田 悠希	文学部	授業担当講師	

	中川 成美	文学研究科	授業担当講師
	松本 理美	文学部	授業担当講師
	大村 和正	産業社会学部	授業担当講師
客員協力研究員	鳥木 圭太	龍谷大学	非常勤講師
	佐藤 麻衣	日本橋中学校	非常勤講師
	宮下 和子	鹿屋体育大学	名誉教授
	海寶 康臣	九州歯科大学	講師
	加藤 昌弘	名城大学	准教授
	栗山 祐介	佐世保高専	講師
	前田 江利子	言語文化研究所	客員研究員
	小林 善帆	京都芸術大学	非常勤講師
	磯部 直希	多摩美術大学	非常勤講師
	CECILIA Elias	Asociación Argentina de Profesores de Técnica Alexander (AAPTA)	現代舞踏家
	土肥 秀行	東京大学	准教授
	青木 耕平	愛知県立大学	専任講師
	今野 裕子	亜細亜大学	講師
	仲間 絢	ハーバード大学	リサーチアソシエイト
	大形 綾	京都大学高等研究員	非常勤研究員
	櫻澤 誠	大阪教育大学	准教授
	金 昇淵	文学研究科	研究生
	田尻 芳樹	東京大学	教授
	仲間 裕子	衣笠総合研究機構	プロジェクト研究員
	姫岡 とし子	東京大学	名誉教授
	堀江 有里	公益財団法人世界人権問題研究センター	専任研究員
FARNE Federico	東京大学	JSPS Research Fellow	
その他の学外者	坂口 満宏	京都女子大学	教授
	秋山 かおり	国際日本文化研究センター	機関研究員
	吉村 季利子	京都大学大学院	博士課程後期課程
	山崎 遼	順天堂大学	助教
	湊 圭史	松山大学	教授
	久野 量一	東京外国語大学	教授
	中村 隆之	早稲田大学	教授
	野村 真理	金沢大学	名誉教授
	原 佑介	金沢大学	准教授
	金 昇淵	大阪公立大学	特任助教
	大野 愛梨	神戸学院大学、常翔啓光学園高等学校	非常勤講師

	玉野井 麻利子	UCLA	名誉教授
	田中 壮泰	東海大学	非常勤講師
	池内 靖子	立命館大学	名誉教授
	泉谷 瞬	近畿大学	講師
	岩川 ありさ	早稲田大学文学学術院	准教授
	上野 千鶴子	東京大学 認定 NPO 法人ウィメンズアク ションネットワーク (WAN)	名誉教授 理事長
	江南 亜美子	京都芸術大学	専任講師
	WANG Yang		独立研究者
	大谷 通高	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	研究推進員
	岡野 八代	同志社大学	教授
	河田 学	京都芸術大学	教授
	要 真理子	跡見学園女子大学	教授
	香川 檀	武蔵野大学	教授
	木村 朗子	津田塾大学	教授
	CHLOE Bellec	東北大学	講師
	澤西 祐典	龍谷大学	講師
	ZHUANG Jiechun	惠州学院 (中国)	専任教員
	SEO Mincheol	京都大学大学院文学研究科	博士課程後期課程
	TSE Dorothy	香港浸會大學	准教授
	徳永 和博	三重大学	講師
	中村 雪子	横浜国立大学	学振特別研究員 (PD)
	西井 麻里奈	大阪大学	助教
	西脇 幸太	愛知文教大学	講師
	PATERSON Rebecca	京都大学大学院教育学研究科	博士課程後期課程
	FASSBENDER Isabel	同志社女子大学	助教
	藤井 光	東京大学	准教授
	松井 幸一	関西大学	准教授
	松田 佑治	名古屋学院大学	講師
	三木 順子	京都工芸繊維大学	准教授
	山口 真紀	神戸学院大学	特任講師
	山本 真紗子	京都市立芸術大学	学振特別研究員 (RPD)
	YANG Insil	岩手大学	准教授
	LIONG Mario	国立台北大学	准教授
研究所構成員 計 141 名 (うち学内の若手研究者 計 27 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	飯島真里子	「戦後沖縄における糖業復興——製糖経験と沖縄ディアスポラの連続性」(著書分担執筆)	単著	2024年2月	『引揚エリートと戦後沖縄の再編』	野入直美編	pp. 129~182
2	高橋秀寿	反ユダヤ主義と「過去の克服	単著	2023年12月	人文書院		
3	河原典史	海を魅せつつける伊根浦の舟屋	共著	2024年3月	ナカニシヤ出版、『京都を学ぶ【丹後編】:文化資源を発掘する』	京都学研究会編	pp. 156~175
4	西成彦	第五章:ポーランド人であること、になること、もさせられること——ニーチェからゴンブローヴィチへ	共著	2023年9月	成文社、『ロシア・東欧の抵抗精神／抑圧・弾圧の中での言葉と文化』	石川達夫編、貝澤哉・奈倉有里・西成彦・前田和泉著	pp. 117~34
5	加藤昌弘	ゆさぶるカルチュラル・スタディーズ	共著	2024年1月	北樹出版	稲垣健志	pp. 48~56
6	岩本知恵	安部公房と境界: 未だ/既に存在しない他者たちへ	単著	2024年3月	春風社		
7	三須祐介	中国語現代文学案内 中国、台湾、香港ほか	共著	2024年3月	ひつじ書房	栗山千香子・上原かおり編	pp. 4
8	堀江有里	日本におけるキリスト教フェミニスト運動史 —— 1970年から2022年まで	共著	2023年6月	新教出版社	富坂キリスト教センター編、山下明子・山口里子・大嶋果織・堀江有里・水島祥子・工藤万里江・藤原佐和子著	pp. 200~209 ほか
9	姫岡とし子	ジェンダー史10講	単著	2024年2月	岩波新書		pp. 1~225
10	姫岡とし子	<ひと>から問うジェンダーの世界史 第2巻	共著	2023年9月	大阪大学出版会	久留島典子・小野仁美	全般
11	姫岡とし子	岩波講座 世界歴史 16	共著	2023年9月	岩波書店	木畑洋一・安村直己	pp. 99~126
12	山本めゆ	『論点・ジェンダー史学』	共著	2023年6月	ミネルヴァ書房	山口みどり・弓削尚子・後藤絵美・長志珠絵・石川照子 編著	pp. 320
13	Jackie J. Kim-Wachutka	Special Issue: Contemporary Zainichi Experience	共著	2023年6月	Seoul National University; Kyujanggak International Center for Korean Studies	Jackie J. Kim-Wachutka and Allen Kim	pp. 1~206
14	Jackie J. Kim-Wachutka	Special Issue: Contemporary Zainichi Experience	単著	2023年6月	Seoul National University; Kyujanggak International Center for Korean Studies		pp. 365-595
15	鳥山純子	『論点・ジェンダー史学』	共著	2023年6月	ミネルヴァ書房	山口みどり・弓削尚子・後藤絵美・長志珠絵・石川照子 編著	pp. 224~225
16	二宮周平	ジェンダー視点で読み解く重要判例 40	共著	2023年12月	日本加除出版	後藤弘子	pp. 141~148、 pp. 305~312
17	岡野八代	ケアの倫理——フェミニズムの政治思想	単著	2024年1月	岩波書店		pp.1~342
18	欧陽珊珊	第5章「残酷児」——台湾における障害のある性的少数者の実践	共著	2023年3月	『クィア・スタディーズをひらく3』	菊地夏野・堀江有里・飯野由里子編著	pp. 108~135
19	高橋秀寿	『反ユダヤ主義と「過去の克服」——戦後ドイツ国民はユダヤ人とう向き合ったのか』現状・課題・将来	単著	2023年12月	人文書院		pp.1~334
20	三木順子	『はるかなる「時」のあなたに: 風景論の新たな試み』	共著	2023年6月	三元社	辻成史編・水野千依・三木順子ほか著	
21	西岡亜紀	〈戦い〉と〈トラウマ〉のアニメ表象 「アトム」から「まどか☆マギカ」以後へ	共著	2023年7月	日本評論社		第6章

22	田尻芳樹	J・M・クッツェー：世界と「私」の偶然性へ	単著	2023年	三修社		pp.1~362
23	阪本佳郎	シュテファン・パチウ：あ る亡命詩人の生涯と海を越 えた歌	単著	2024年4月	コトニ社		pp.1~654
24	岩本知恵	安部公房と境界：未だ/既 に存在しない他者たちへ	単著	2024年3月	春風社		pp.1~286

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者 名	担当頁数	査読有無
1	番匠健一	反戦の意識がある人 間をケンカせんよう に集める	単著	2024年3月	『立命館平和研究』別冊2号		pp. 41-66	無
2	高橋秀寿	書評 平野千果子 『人種主義の歴史』	単著	2023年12 月	『現代史研究』69号			無
3	Taura Hideyuki	Individual Differences Between Two Japanese Returnees - Attriters of English	単著	2023年9月	立命館言語文化研究第35巻1 号		pp. 111~124	無
4	Zhang Jie	Listening Working Memory and Brain Activation in Simultaneous Interpreting: An fNIRS Study	単著	2023年9月	立命館言語文化研究第35巻1 号		pp. 125~144	無
5	Huang Qiang	Brain Activation and Eye Movement during Interpreting in Professional Interpreters and Trilingual Students	単著	2023年9月	立命館言語文化研究第35巻1 号		pp. 145~168	無
6	深石葉子	フィリピンルーツ高 校生のビサヤ語(L1) 英語(L2)日本語 (L3)における作文 力の関係についての 考察	単著	2023年9月	立命館言語文化研究第35巻1 号		pp. 169~192	無
7	河原典史	カナダ・バンクーバ ーにおける日本人移 民の家内労働-20世 紀初頭におけるガー ディナーの萌芽をめ ぐる考察-	単著	2023年月	立命館大学言語文化研究所、 立命館言語文化研究、34巻2 号		pp. 1~17	無
8	岡本広毅	「英雄精神と(騎士道) ——トールキンのベ オルフトノスとガウエイ ン」	単著	2023年10 月	『ユリイカ:詩と批評』55巻14号		pp. 191~204	無
9	アラリック・ ホール/岡 本広毅訳	「リーズ大学の J.R.R. トールキン」	単著	2023年10 月	『ユリイカ:詩と批評』55巻14号		pp. 205~209	無
10	ウェルズ恵 子	Fox Possession in Medieval Japan: The Reality of the Belief and Treatment of the Illness as a Shadow ow Political Unrest	共著	2024年3月	立命館大学人文科学研究所紀 要 138号	三枝暁子	pp. 153~167	有

11	Fumiko Sakashita	With Pens, Signs, and Buttons: The Politics of Black Women's Anti-Lynching Activism in the 1930s-40s	単著	2023年3月	立命館大学文学部人文学会、立命館文學、第683号		pp. 307~323	無
12	加藤昌弘	ポッドキャストはラジオではなかった: 日本における黎明期(2005~2007年)の入門書を事例とするメディア史研究	単著	2023年12月	人間学研究, 21号		pp. 1~16	有
13	安保寛尚	リディア・カブレラの『キューバの黒人のおはなし』とキューバのヴァンキュラー文学	単著	2023年9月	立命館言語文化研究, 第35巻1号		pp. 63~80	無
14	岩本知恵	〈まなざされる〉脆さと加害性——安部公房『他人の顔』論	単著	2024年1月	立命館文学, 第687号		pp. 13~26	有
15	國司航佑	レオバルディの初期カンツォーネの韻律——レオバルディはイタリア抒情詩の規範といかに対峙したか——	単著	2024年3月	国際言語文化, 第8号		pp. 59~70	
16	三須祐介	台湾現代文学のなかの「鬼」の形象: 陳思宏『亡霊の地』と台湾における鬼月の観察を手がかりに	単著	2023年9月	立命館言語文化研究, 第35巻1号		pp. 1~9	無
17	金友子	「難民の土地」から「土地のなかの難民」へ——『パレスチナとは何か』に見る非/人間存在と入植植民地主義批判	単訳	2023年11月	岩波書店『思想』1196号	申知暎著		無
18	金友子	ワークショップ講演録「日本におけるレイシズムとヘイトスピーチ: 京都からの声」	共著	2024年3月	立命館大学コリア研究センター『コリア研究』12号	郭辰雄、中村一成、金明秀、黄盛彬	pp. 1~2	無
19	金友子	解題「移動の経験——アートを通してジェンダーと人種のアイデンティティをクリアする」	その他	2023年12月	クレイン『抗路 在日総合誌』、第11号	Kimura byol lemoine (翻訳・解題=金友子)	pp. 178~185	無
20	KIM Wooja	Introduction to the Special Features: Pandemic, Fear, and Hate: Lessons from the COVID-19 Era	単著	2023年12月	Asia-Japan Research Institute Ritsumeikan University, "Asia-Japan Research Academic Bulletin" Vol.4		pp. 1~2	無
21	堀江有里	性への忌避——キリスト教の女性嫌悪・同性愛嫌悪をめぐる断想	単著	2023年5月	エトセトラブックス、『エトセトラ』、第9号		pp. 84~89	無
22	堀江有里	家族主義の再生産装置としての〈結婚〉——クィア神学からの批判的考察	単著	2023年6月	信山社、『法と哲学』、第9号		pp. 145~164	無
23	堀江有里	〈罪の赦し〉と権力構造——キリスト教における贖罪論の問い直し	単著	2024年3月	花園大学人権教育研究センター、『人権教育研究』、第32号		pp. 1~20	無
24	山本めゆ	「引揚げの記憶/報道/研究における「娼婦」の他者化——	単著	2023年10月	日本史研究会『日本史研究』734号		pp. 18~35	無

		黒川開拓団・遺族会の経験を通じてー]						
25	Jackie J. Kim-Wachutka	Zainichi Korean Women and Intersectional Visibility: Private Talk, Public Speech, Political Act- Seeking Justice in Japan	単著	2023年6月	The Kyujanggak Institute for Korean Studies: Seoul Journal of Korean Studies Volume 36, Number 1	Jackie J. Kim-Wachutka and Allen Kim	pp. 167-202	有
26	Jackie J. Kim-Wachutka	Guest Editor's Introduction	単著	2023年6月	The Kyujanggak Institute for Korean Studies: Seoul Journal of Korean Studies Volume 36, Number 1	Jackie J. Kim-Wachutka and Allen Kim	pp. 1-9	無
27	Jackie J. Kim-Wachutka	Guest Editor's Introduction	単著	2023年12月	The Kyujanggak Institute for Korean Studies: Seoul Journal of Korean Studies Volume 36, Number 1	Jackie J. Kim-Wachutka	pp. 365-413	無
28	鳥山純子	「家父長制はマザコン生成装置なのかー現代モロッコの嫁姑問題から」	単著	2023年5月	『エトセトラ』 Vol. 9. etc.books		pp. 84-89	無
29	二宮周平	婚姻平等を考える～同性婚の法制化	単著	2023年5月	日本加除出版、戸籍時報、839号		pp. 35-44	無
30	二宮周平	同性婚訴訟5つの地裁判決の意義と課題～婚姻の自由の保障へ向けて	単著	2023年8月	日本加除出版、戸籍時報、842号		pp. 2-11	無
31	二宮周平	同性パートナーにおける親子関係の形成と支援のあり方	単著	2024年2月	日本加除出版、家庭の法と裁判、48号		pp. 11-18	無
32	二宮周平	トランスジェンダーの尊厳の保障～2つの最高裁判例を中心に	単著	2024年2月	日本加除出版、戸籍時報、849号		pp. 2-9	無
33	岩本知恵	「〈まなざされる〉脆さと加害性——安部公房『他人の顔』論」	単著	2024年1月	立命館大学人文学会、『立命館文学』第687号		pp.13-26	有
34	欧陽珊珊	「カミングアウトをめぐる可変的な交渉過程:ある障害をもつ男性同性愛者の経験を事例に」	単著	2024年3月	国際基督教大学ジェンダー研究センター、『ジェンダー&セクシュアリティ』, 19巻		pp. 47-68	有
35	欧陽珊珊	「障害とセクシュアリティの交差についての考察:台湾の肢体障害/男性同性愛者の経験から」	単著	2021年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科、『コア・エシックス』, 17巻		pp. 51-63	有
36	山本真紗子	「近代京都の外国人旅行者と東山—粟田の変化と美術工芸品購入を中心に—」	単著	2023年8月	高木博志ほか著『近代京都と文化「伝統」の再構築』思文閣出版		pp. 541-568	無
37	Yuko Nakama	Sesshu 's Long Landscape Scroll: Life and Death in the Cycle of the Four Seasons	単著	2023年12月	The Journal of Asian Arts & Aesthetics, vol.9.	Yuko Nakama, Guest Editor-in-Chief	pp. 1-2	無
38	Shoko Sumida	Ruins and creativity: Focusing on environmental development and cultural policies in Japan since the 1980s	単著	2024年3月	Ritsumeikan Studies in Language and Culture, vol.35. no.3		pp. 39-47	無

39	住田翔子	地図を描く？—メディア論的アプローチによるパルクール試論—	単著	2023年11月	現代スポーツ評論 49号		pp. 52~62	無
40	FARNÈ Federico		単著	2024年3月	Ritsumeikan Studies in Language and Culture, vol.35, no.3		pp. 49~59	無
41	TAURA, Hideyuki	Individual Differences Between Two Japanese Returnees – Attriters of English: A Six-Year Longitudinal Neuro-psycholinguistic Study to Test the CDST	単著	2023年9月	「立命館言語文化研究」35巻1号		pp. 111~123.	有
42	有田節子	Oraciones imperativas acompañadas de una oración condicional en japonés y español	単著	2024年3月	立命館言語文化研究 35(3)		pp. 119~135	有
43	吉田恭子	拡張する翻訳——多和田葉子のドイツ語小説の翻訳をめぐる——	単著	2024年	早稲田大学国際文学館ジャーナル』Vol. 2		pp. 75~80	無
44	吉田恭子	英語翻訳からふりかえる現代詩	単著	2023年8月	『ユリイカ』8月号		pp. 294~301	無
45	澤西祐典	芥川旧蔵書から(1)芥川龍之介とバートン版『千夜一夜物語』について	単著	2024年3月	『近代作家旧蔵書研究会年報』(2)		pp. 9~25	無
46	岩本知恵	〈まなざされる〉脆さと加害性：安部公房『他人の顔』論	単著	2024年1月	『立命館文学』(687)		pp. 13~21	無
47	藤井光	遠い死者たち、語る私たち：21世紀英語圏文学における戦争と記憶のグローバル化	単著	2024年3月	『EX ORIENTE』28		pp. 163~197	無
48	藤井光	戦争の記憶をいかにして移民の若者たちと共有していけるか	単著	2024年3月	『同志社大学グローバル地域文化学会紀要』(21・22)		pp. 345~350	無
49	吉田恭子	書評『J.M.クッツェー——世界と「私」の偶然性へ	単著	2024年	『言語情報 テキスト』Vol 30, 2023		pp. 57~62	無
50	吉田恭子	はじまりの京都文学レジデンシー	単著	2024年4月	『図書』(892):2023.4		pp. 22~25	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	小川真和子	「沖縄戦の記憶とその継承：ひめゆり学徒とハワイ、そしてある教師が生きた戦後」(研究報告)	2023年9月	女性史総合研究会例会（於立命館大学茨木キャンパス）	
2	今野裕子	「アジア系移民は『セトラ』なのか——植民地主義、戦争体験とその記憶化」(シンポジウムコメント)	2023年9月	日本アメリカ史学会 第20回年次大会シンポジウムB（於北海学園大学）	

3	西岡亜紀	「21世紀文学の(冒険)～いま、表現形式に起こっていること」で講演及び、全体のコーディネート	2023年10月	立命館大学衣笠総合研究機構・国際言語文化研究所・土曜講座(市民講座) 「21世紀の文学 人間だからできること、人間でないものにもできること」	
4	西岡亜紀	郭南燕「ド・ロ神父の日本語文学と版画制作の主導」(編著『宣教師の日本語文学 研究と目録』を中心に)司会・ディスカッサント	2024年1月	日本比較文学会関西支部1月例会	
5	田浦秀幸	"Narrative Production: An fNIRS Study on Japanese-English Bilinguals" in the symposium "Bilingual and Multilingual Narrative from Multiple Perspectives" (座長)	2023年6月	The 14th International Symposium on Bilingualism, Sydney, Australia.	
6	田浦秀幸	"Language Attrition in two Japanese Returnees from Neuro-linguistic Perspectives" in the symposium "Language Attrition in the Japanese Context from a CDST Perspective" (座長)	2023年7月	20th AILA World Congress, Lyon, France.	
7	田浦秀幸	"A 10-year Longitudinal Neuro-linguistic Study Examining the CDSST Theory"	2023年9月	思考と言語研究会「人間の言語処理と学習」(電子情報通信学会)東京大学	
8	田浦秀幸	"Conventional Language Proficiency Assessment versus Brain Activation and Eye-tracking Measures"	2024年3月	The 58th RELC International Conference at SEAMEO RELC, Singapore.	
9	河原典史	カナダ日本人移民史研究の再考—水産業から庭園業、そして造園業へ—	2023年9月	日本民俗建築学会 第97回研究会	
10	河原典史	『グランドフォークス在留日本人記念写真帖』から読み解く日本人移民の強制移動	2023年9月	日本カナダ学会 第48回年次研究大会	
11	Hiroki Okamoto	"Arthurian Legends and Gawain's Reception in Japan"	2023年8月	The 2023 Hiroshima International Conference In sondry ages and sondry londes: Global Chaucer in the XXIst Century (Zoom 参加)	
12	岡本広毅	「J.R.R.トールキンのガウェイン像——“ofermod”と“chivalry”に着目して」	2023年12月	国際アーサー王学会日本支部 2023年度年次大会	
13	Hiroki Okamoto	"Japanese Role-Playing Games (JRPG) and Western Medievalism"	2024年3月	Murdoch University (Perth, Murdoch Japan Society (MJS))	
14	Hiroki Okamoto	"Medievalism and Arthurian Legend in Japan"	2024年3月	Perth Medieval and Renaissance Group, University of Western Australia	
15	ウェルズ恵子	ox Possession in Medieval Japan: Reality of the Belief and Treatment of the Illness as a Shadow of Political Unrest (中世日本の狐憑き: 政治不安を映す狐憑き信仰と治療について)	2023年10月	国際シンポジウム "Thinking Animals" (動物を考える) Slovenian Ethnology Research Centre of the Slovenian Academy of Sciences and Arts and Biotechnical Faculty of the University of Ljubljana (スロベニア科学芸術アカデミー民族学研究センター、リュブリャナ大学バイオテクノロジー学部共同)	三枝暁子
16	岩本知恵	憑在する二重の物語——小川洋子『ミーナの行進』論	2023年11月	日本比較文学会第59回関西大会、立命館大学	武田悠希、岩本知恵、河内美帆、山西将矢、ディスカッサント: 小川歩人、司会: 岩

					津航
17	Meyu Yamamoto	Surviving the Past Collectively: Towards Understanding the Agency of Sexual Violence Victims in the Japanese Repatriate Community from Manchuria	2023年11月	International Seminar on Collective Creativity: Overcoming the Crisis in the World and Everyday Life through Collective Creativity	Zona Hildegard S. AMPER (Director Center for Social Research and Education Full Professor, University of San Carlos, PHILIPPINES) Amrit Ratna BAJRACHARYA (VSFO folk photographer NEPAL) Misa HIRANO-NOMOTO (Kyoto University JAPAN) Makito KAWADA (Seijo University JAPAN) Motoji MATSUDA (Research Institute for Humanity and Nature, JAPAN) Kanako NAKAGAWA (Otemon Gakuin University JAPAN) Antoine SOCPA (Department of Anthropology The University of Yaounde CAMEROON)
18	栗山雄佑	「なぜ(怒り)は(クィア)化されていくのか——目取真俊の著作から桐野夏生「メタボラ」へ	2023年8月	科研費基盤(C)研究会「観光文学研究会」立教大学	
19	栗山雄佑	「後藤みな子「高円寺へ」——(母の狂気)を描く娘——作家」(「原爆文学」再読10—後藤みな子「高円寺へ」)	2024年3月	第71回原爆文学研究会 福岡大学	
20	栗山雄佑	「なぜ(怒り)は(クィア)化されていくのか——目取真俊の著作から桐野夏生「メタボラ」へ	2023年8月	科研費基盤(C)研究会「観光文学研究会」立教大学	
21	Jackie J. Kim-Wachutka	Fighting Against Hate Speech and Microaggression	2024年3月	AAS International Conference, Seattle Washington	
22	Jackie J. Kim-Wachutka	Thinking about migration across geographic, historic, and disciplinary boundaries. Invited Commentator	2023年10月	Kobe University, Japan	Dr. Špela Drnovšek Zorko.
23	Jackie J. Kim-Wachutka	Global Aging and Diversity in Multi-Ethnic, Multi-Cultural Japan: Space and Place of "Ibashi," Memory, and Community. International Symposium: "Japan	2023年1月	Toyo University, Japan	
24	鳥山純子	「二十年目の赤っ恥」	2023年4月	イスラーム・ジェンダー科研、おとな研、東京外国語大学本郷サテライトキャンパス	
25	TORIYAMA Junko	Taste of Knowledge "Where to? The direction of a book Taste of Knowledge"	2023年8月	International Workshop Taste of Knowledge #3, Editing Fieldwork and Friendship. On At NIMAR, Rabat, Morocco.	
26	TORIYAMA, Junko	"Critical Studies of Home Making and Migration in the Middle East and North Africa."	2023年9月	FIELD WORKS: Workshop on KULTE 1779. At New KULTE Art Center.	
27	TORIYAMA, Junko	"NIMAR: The Hub, multilateral cooperation between Japan and NIMAR, LUCAS and Moroccan colleagues".	2024年2月	The Netherlands collaborations: With the President of Leiden University, Prof. OTTOW. At Faculté des Lettres et des Sciences Humaines Faculty of Letters, Rabat, Morocco.	

28	二宮周平	家族法の視点から	2023年6月	日本法政学会シンポジウム『「性」をめぐる個人・家族・社会』、京都産業大学	
29	二宮周平	実務上の課題と具体的な提案	2023年7月	ジェンダー法政策研究所シンポジウム「21世紀の人権保障としての婚姻の自由・平等～国際比較から」	
30	二宮周平	日本における面会交流支援機関の現況と今後の課題	2023年9月	4th Co-Parenting Forum for Asia、福容大飯店 花蓮 台湾	
31	二宮周平	子どもの権利としての面接交渉と紛争解決～日本	2023年11月	Seoul Family Court International Conference 2023、El Tower	
32	岩本知恵	「憑在する二重の物語—小川洋子『ミーナの行進』論」	2023年11月	日本比較文学会第59回関西大会、立命館大学	武田悠希・岩本知恵・河内美帆・山西将矢・ディスカッサント：小川歩人 司会：岩津航
33	OUYANG Shsnahsan	How can LGBTQ+ people with disabilities to access Pride Parade in Japan	2024年3月	CRDSSA ANNUAL DISABILITY RESEARCH CONFERENCE、CANADA、Online	
34	欧陽珊珊	レインボーパレードのアクセシビリティ—東京・大阪・九州の事例から	2024年3月	シンポジウム「アクセシビリティと“??”—生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える—」、京都立命館大学	
35	欧陽珊珊	「障害のある性的少数者」の若者がいかに社会運動に参加しているか：日本とドイツにおけるLGBT運動の比較から	2024年3月	第8回若者文化シンポジウム「国際比較からみる若者のアイデンティティと社会参加」、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川	
36	OUYANG Shsnahsan	Accessing Rainbow Pride/Parade: The Inclusion and Exclusion of LGBTQ+ people with disabilities in LGBT Movements in Japan	2023年6月	Alternative Futures & Popular Protest 2023、The University of Manchester	
37	山本真紗子	「近代日本の海外美術品の仲介者と場」	2023年8月	意匠学会第65大会、京都精華大学(京都市)	
38	Yuko Nakama	Reconsidering Caspar David Friedrich's Cycle of the Four Seasons (1803)	2023年10月	Lecture Seminar, Zentralinstitut für Kunstgeschichte, München	
39	仲間裕子	〈消滅〉と〈永遠〉の時間・身体—杉本博司の死生観とヴァニタス思想	2023年9月	国際シンポジウム「Vanitas 現代美術と写真にみるはかなさのイメージ—日独共同研究の成果から」、新国立美術館	ヴィクトリア・フォン・フレミング、香川檀他4名
40	Yuko Nakama	Thoughts on Anthropocene	2023年5月	Online International Conference, The Human Place in the Anthropocene and its conditions: nature, culture, technology, Erasmus University	Hub Zwart、Denis Noble・Hans Krüger他25名
41	Rui Fujimoto	The Violence Embedded in Thomas Hirschhorn's Bataille Monument	2023年7月	22nd International Congress of Aesthetic、ミナス・ジェライス連邦大学	
42	Shoko Sumida	Ruins and "creativity": focusing on environmental development and cultural policy in Japan since the 1980s	2023年8月	the 17th International Conference of the European Association for Japanese Studies	
43	竹中悠美	ザ・ファミリー・オブ・マン」における原爆の影—ポスト占領期に日本を巡回したアメリカの写真展—	2023年5月	ブックローンチ・国際シンポジウム CAPTURE JAPAN—1952年以後の日本、その視覚文化とグローバルな想像力	Marco Bohr氏他6名
44	竹中悠美	趣旨説明、絵の中の窓—空間の枠付と装飾性から	2023年11月	公開ワークショップ 東アジアの〈家〉領域における表と奥	
45	TAURA, Hideyuki	Narrative Production: An fNIRS Study on Japanese-English Bilinguals	2023年6月	The 14th International Symposium on Bilingualism (ISB14) at Macquarie University, Sydney, Australia	TAURA Amanda

46	TAURA Hideyuki	Language Attrition in two Japanese Returnees from Neuro-linguistic Perspectives	2023年7月	20th AILA World Congress at the ENS Campus, Lyon, France	TAURA Amanda
47	TAURA Hideyuki	Conventional Language Proficiency Assessment versus Brain Activation and Eye-tracking Measures	2024年3月	The 58th RELC International Conference at SEAMEO RELC in Singapore,	N/A
48	有田節子	A Comparative Study of Tense and Modality in Conditional Clauses in Standard Japanese and the Dialects of Kyushu	2023年4月	International Symposium on Japanese Studies (Re)-imagining and (re)-translating Japanese culture (online)	
49	有田節子	「論理文」の時制とモダリティ	2023年6月	関西言語学会第48回大会(オンライン)大会シンポジウム	
50	有田節子	条件節の脱従属化:順接仮定条件表現形式「ギ」を中心に	2023年11月	日本語学会第167回大会 同志社大学京田辺キャンパス	
51	有田節子	The expression of logical relationships in Japanese through the use of tense and modality in complex sentences	2023年12月	Kaken Semantics Workshop (jointly held with Semantics Workshop in Tokai and Kansai) 名古屋学院大学白鳥キャンパス	
52	有田節子	Conditional Constructions in Japanese and Spanish from the Perspective of Contextual Dependency	2024年3月	Linguistics and Asian Languages, Adam Mickiewicz University, Poznań	
53	滝沢直宏	副詞と Semantic Prosody	2023年12月	現代英語談話会	
54	滝沢直宏	ly 副詞の諸相:書き言葉と話し言葉	2024年2月	立命館大学・国際言語文化研究所主催シンポジウム「話し言葉の文法とコーパス、そして英語教育」	
55	吉田恭子	目標言語は英語～翻訳文学を並べて読む	2023年5月	特別シンポジウム「翻訳から生まれる文学研究:英語文学を越えて」にて研究発表日本英文学会全国大会、関東学院大学関内キャンパス	吉田恭子
56	吉田恭子	招待講演「翻訳から生まれる新しい文学」	2023年6月	近畿大学	吉田恭子

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	「日本とフランスの YA (ヤングアダルト)小説の今日～アントニオ・カルモナ氏、長谷川まりる氏対談～」	関西日仏学館 稲畑ホール	2024年2月	30名程度	
2	弟を探して -植民地時代キューバにおける奴隷制の影-	衣笠キャンパス	2023年7月	30名程度 (オンライン含む)	
3	ヴァナキュラーな儀礼と音楽 -ペルーのアンデス農村における実践-	衣笠キャンパス	2023年10月	30名程度	
4	証言と抵抗の歌 -ペルーのアンデス村落における内戦期から今日までの物語-	衣笠キャンパス	2024年3月	20名程度	
5	モダニズムの水平線:世界文学シンポジウム	衣笠キャンパス	2024年3月	50名程度	
6	呉佩珍氏(台湾 国立政治大学)講演会「台湾詩人饒正太郎と日本モダニズム詩」	衣笠キャンパス	2023年7月	20名程度	
7	張文菁氏(愛知県立大学)講演会「戦後台湾における通俗恋愛小説の発展:金杏枝と台湾語映画『難忘的車站』」	衣笠キャンパス	2023年7月	15名程度	
8	城山拓也氏(東北学院大学)講演会「漫画家から中国画家への転身:中華人民共和国建国前後の葉浅予について」及び新著書評の	衣笠キャンパス	2024年2月	15名程度	

	会				
9	栗山雄佑『(怒り)の文学化——近現代日本文学から(沖縄)を考える』書評会	衣笠キャンパス	2024年3月	20名程度	
10	弟を探して—植民地時代キューバにおける奴隷制の影—	衣笠キャンパス	2023年7月	30名程度 (オンライン含む)	
11	International Seminar, A Dialogue between two Middle Eastern Feminists: social changes, books, and forming feminist selves. (二人の中東出身フェミニストの対話: 社会変革、本、そしてフェミニストとして生きること) 立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム、	衣笠キャンパス	2023年6月	47名	CMEIS/科研(A): イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究共催
12	Queering gender and race identity thru art: A geographical experience	衣笠キャンパス	2023年4月	15名	
13	月例研究会「儒教的祭祀と在日コリアン女性」(李裕淑さん報告)	衣笠キャンパス	2023年4月	30名	立命館コリア研究センター
14	ヤン・ヨンヒ監督作品上映とトーク「かぞくのくに」	立衣笠キャンパス	2023年6月	37名	
15	女性映画産業従事者の声を聞く: 日本と韓国の映画製作労働環境と動向	京都大学芝蘭会館 山内ホール	2023年12月	80名	基盤研究(C)「東アジアのトランスナショナルなネットワークと在日コリアンの映画運動の社会史」、京都大学男女共同参画推進センター「女子学生チャレンジプロジェクト 2023」、上野千鶴子基金 Seeds プロジェクト
16	ワークショップ「アートと観光/まちづくり: 秋田の事例から」	衣笠キャンパス	2023年12月	15名	ワークショップ「アートと観光/まちづくり: 秋田の事例から」
17	ワークショップ「アートと観光/まちづくり: 新潟・京都の事例から」	衣笠キャンパス	2024年2月	15名	ワークショップ「アートと観光/まちづくり: 新潟・京都の事例から」
18	ブックローンチ・国際シンポジウム CAPTURE JAPAN—1952年以後の日本、その視覚文化とグローバルな想像力	衣笠キャンパス	2023年5月	40名	ブックローンチ・国際シンポジウム CAPTURE JAPAN—1952年以後の日本、その視覚文化とグローバルな想像力
19	公開ワークショップ 東アジアの〈家〉領域における表と奥	衣笠キャンパス	2023年11月	30名	公開ワークショップ 東アジアの〈家〉領域における表と奥
20	シンポジウム「話し言葉の文法とコーパス、そして英語教育」	衣笠キャンパス	2024年2月	15名	立命館大学・国際言語文化研究所主催
21	立命館大学衣笠総合研究機構・国際言語文化研究所企画土曜講座第 3391~3393 回「21世紀の文学 人間だからできること、人間でないものにできること」	衣笠キャンパス	2023年10月	40~50名	立命館大学・国際言語文化研究所主催
22	モダニズムの水平線——世界文学シンポジウム	衣笠キャンパス	2024年3月	50名	立命館大学・国際言語文化研究所主催
23	京都文学レジデンシー2023 オープニング・フォーラム	香老舗 松栄堂・薫習館	2023年10月	約150名	京都文学レジデンシー実行委員会/龍谷大学国際社会文化研究所八幡プロジェクト/京都芸術大学
24	京都文学レジデンシー2023 クロージング・イベント (朗読会)	香老舗 松栄堂・薫習館	2023年10月	約50名	京都文学レジデンシー実行委員会/龍谷大学国際社会文化研究所八幡プロジェクト/京都芸術大学
25	日本とフランスの YA (ヤングアダルト) 小説の今日~アントニオ・カルモナ氏、長谷川まりる氏対談~	関西日仏学館 稲畑ホール	2024年2月	約50名	国際言語文化研究所重点プロジェクト主催
26	「琵琶湖を読む×琵琶湖を書く」特別講演 (円城塔・澤西祐典・福永信)	ピアザ淡海	2024年3月	約40名	国際言語文化研究所主催
27	演劇シナリオの書き方 (谷風作×西岡)	立命館大学	2023年6月	約20名	言語表現メディア研究会
28	公開シンポジウム (チカラプロジェクト) 第4回「形のチカラ: 無機物にいのちが吹き込まれるとき」 湯見英明 (人形劇芝居師) ×濱野剛男 (本田技研工業デザイナー) ×司会・西岡亜紀	衣笠キャンパス	2023年7月	約20名	国際言語文化研究所萌芽研究助成「虚構のリアリティ研究会」と言語表現メディア研究会との共催

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
-----	----	-------	-------	------

1	河原典史	[講演]忘れられたカナダ日本人移民史:ロジャース岬に散った鉄道契約移民	滋賀県平和祈念館	2024年2月
2	河原典史	[書評]佐藤正弥・梅津恒夫・船坂朗子著『カナダ移民のバイオニア 佐藤惣右衛門物語』	カナダ研究年報, 43号	2023年
3	岡本広毅	書評:池上忠弘企画、狩野晃一編『チヨウサー巡礼』	図書新聞(3589), 悠書館	2023年4月
4	岡本広毅	News Picks トピックス「RPGで知る西洋の歴史」	ウェブ https://newspicks.com/topics/rpg-westernhistory/	2023年11月~
5	坂下史子	アメリカ史におけるリンチ	第30回 同志社大学アメリカ研究所コロキウム	2023年12月1日
6	加藤昌弘	教養のブリティッシュ・ロック:なぜビートルズは今どきの「若者」にウケるのか?	知立市生涯学習推進講座	2023年8月26日
7	加藤昌弘	ネッシーはどこだ」約半世紀ぶりの大捜索:ドローン、水中聴音装置も駆使 未確認生物 (UMA) の楽しみ方	東京新聞 朝刊 22面	2023年8月30日
8	Bova Erio	中島敦の朝鮮経験	立命館大学ライスボールセミナー	2023年6月8日
9	岩本知恵	安部公房と幽霊:存在しないものの想像力	立命館大学ライスボールセミナー	2023年6月22日
10	三須祐介	[文芸翻訳] 陳思宏著『亡霊の地』	早川書房	2023年5月
11	三須祐介	[書評] 濱田麻矢『少女中国:書かれた女学生と書く女学生の百年』	現代中国, 97号, PP110~115	2023年9月
12	金友子	大学内レイシャルハラスメントとマイクロアグレッション	日朝関係史講座、同志社大学(京都市)	2023年12月8日
13	金友子	マイクロアグレッションって何だろう?:無自覚な差別と排除を考える	JICA 中部なごや地球ひろば セミナールーム(愛知県名古屋市)	2023年11月12日
14	金友子	在日外国人教育を進めるために:マイクロアグレッションについて考える	大阪府教育センター(大阪市)	2023年10月16日
15	金友子	マイクロアグレッション:日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	(大阪市職員人材開発センター(大阪市))	2023年9月21日
16	金友子	マイクロアグレッションを理解する	ふたば国際プラザ(神戸市)	2023年9月17日
17	金友子	マイクロアグレッション:日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	京都府立城陽高等学校(城陽市)	2023年8月30日
18	金友子	対談:映画「最も危険な年」上映会・対談会	大阪弁護士会館(大阪市)	2023年7月22日
19	金友子	マイクロアグレッション:日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	奈良市教育センター(奈良市)	2023年6月30日
20	金友子	マイクロアグレッション:日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	大阪府立東住吉高等学校(大阪市)	2023年6月5日
21	鳥山純子	『家父長制ホラー』が照らすシステムからの脱却	Islam 映画祭トークセッション、神戸元町映画館	2023年4月30日
22	鳥山純子	「中東で政治化される女性身体【イラク戦争から20年②】」	聡子の部屋第41回、オンライン・Readin' Writin' Book Store	2023年5月19日
23	鳥山純子	「イスラームと『マザコン』—母子関係から考える現代中東のジェンダー」	『中東・イスラーム学び直し—地域研究が描き出す政治・文化・宗教』立命館アカデミックオンラインセミナー、オンライン	2024年2月8日
24	二宮周平	親の別居離婚と子どもの権利保障	大阪弁護士会シンポジウム「離婚後の親子に関する制度のあり方を考える」、大阪弁護士会館	2023年5月20日
25	二宮周平	子をめぐる争い〜子どもが主人公の調停は可能か	広島家事調停協会研修会、広島弁護士会館	2023年7月31日
26	二宮周平	協議離婚の法制度と家族法制部会の議論	離婚アラート研究会シンポジウム「共同親権をめぐり議論と協議離婚制度〜国際結婚家族の無断離婚問題を通して」、豊中国際交流センター	2023年9月24日
27	OUYANG Shsnahsan	The 2023 CTSG and CAPPE Gender, Sexuality and the Politics of Disability—Activist in Residence	The Centre for Transforming Sexuality and Gender, University of Brighton, UK	2023年6月~7月

28	高橋秀寿	書評「平野千果子『人種主義の歴史』(岩波書店、2020年)」ラム	『現代史研究』69号	2023年
29	仲間裕子	書評、石田圭子著『ナチズムの芸術と美学を考える—偶像破壊を超えて』	『図書新聞』	2024年2月24日
30	仲間裕子	カスパー・ダーヴィット・フリードリヒ《氷海》—精神と自然「仲間裕子」	アートスケープ	
31	藤本流位	公共空間へと拡張する現代美術—トーマス・ヒルシュホーンを中心に	立命館大学付属校向けライスボールセミナー、立命館慶祥中学校・高等学校	2023年7月13日
32	藤本流位	メル・ボックナーの自己表現、わたしの自己表現—国立国際美術館「コレクション2 特集展示:メル・ボックナー」	ウェブメディア「PaparC」	2023年4月28日
33	吉田恭子	創作発表「Dogs and Miracles」	「モダニズムの水平線—世界文学シンポジウム」、立命館大学	2024年3月5日
34	西岡亜紀	21世紀文学の〈冒険〉—いま、表現形式に起こっていること	立命館大学衣笠総合研究機構・国際言語文化研究所企画土曜講座・第3391回「21世紀の文学人間だからできること、人間でないものからできること」	2023年10月7日
35	西岡亜紀	郭南燕「ド・ロ神父の日本語文学と版画制作の主導」(編著『宣教師の日本語文学 研究と目録』を中心に)にて司会・ディスカッサント	日本比較文学会関西支部1月例会	2024年1月20日
36	西岡亜紀	日本とフランスのYA小説の今日—アントニオ・カルモナ氏、長谷川まりる氏対談—司会	立命館大学衣笠総合研究機構・国際言語文化研究所企画、関西日仏学館 稲畑ホール	2024年2月29日
37	澤西祐典	『作者』とは何か—人間と人間でないものの境界線—	立命館大学衣笠総合研究機構・国際言語文化研究所企画土曜講座・第3392回「21世紀の文学人間だからできること、人間でないものからできること」	2023年10月21日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業(科研費)						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	田浦秀幸	胎生期のバイリンガル体験が生後半年間の受動的言語処理に及ぼす影響	挑戦的研究(萌芽)	2022年6月	2025年3月	代表
2	田浦秀幸	日英バイリンガル言語習得・喪失メカニズム解明包括(言語・脳活動・眼球運動)研究	基盤研究(C)	2023年4月	2027年3月	代表
3	ウェルズ恵子	ラブソングの大衆歌謡化に関する研究:アメリカ世俗歌の歌詞系譜の中で	基盤研究(C)	2022年4月	2026年3月	代表
4	中村仁美	独立後のアイルランドにおける文芸誌の諸相とその躍動	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
5	國司航佑	ジャコモ・レオバルディの「自由カンツォーネ」に関する研究	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
6	佐藤量	満洲引揚者の社会移動と生活再建をめぐる歴史社会学的研究	基盤研究(C)	2021年4月	2026年3月	代表
7	河原典史	バンクーバー大都市圏の日本人ガーディナー:技術革新にともなう庭園・造園業の展開	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
8	三須祐介	中国伝統劇の「記録」と「記憶」に関する研究	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
9	金友子	マイクロアグレッション概念の社会的含意に関する研究—在日朝鮮人を事例として	基盤研究(C)	2023年4月	2025年3月	代表
10	山本めゆ	現代世界の危機に対処する集合的創造性に関する日常人類学的研究	若手研究	2021年4月	2026年3月	分担
11	岡野八代	フェミニズム理論による新たな国家論の構築—ケア概念と安全保障概念の再構想から	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	代表

